

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年05月22日

計画の名称	石見銀山公園を拠点とした観光計画を利用した公園整備													
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)								重点配分対象の該当					
交付対象	大田市													
計画の目標	当該公園は世界遺産登録区域内にあり、大田市新観光計画に世界遺産を巡るモデルコースとして位置づけられている。都市公園施設の整備を行うことにより公園利用者数を増加させる。													
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)		65	A	65	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	事業対象の石見銀山公園の公園利用者を18.6万人/年から約9千人増加させ、19.5万人/年以上を目指す。 石見銀山公園の公園利用者を計測する。	18.6万人		19.5万人
		186000人/年	人/年	195000人/年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H27	H28	H29	H30	H31				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	大田市	直接	大田市	-	-	都市公園事業(石見銀山公園)	A=120.4ha 園路及び広場(遊歩道)の整備	大田市						65		-	
												小計						65		
												合計							65	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
大田市において評価を行い確定	事業完了後
	公表の方法
	大田市ホームページで公表。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	本事業で石見銀山公園の園路及び広場（遊歩道）の整備として落石対策工を実施した。大田市新観光計画を利用した公園整備のため、石見銀山公園の主な公園利用者である観光客の入込客数の増加を定量的指標としていたが、園路及び広場（遊歩道）の整備による影響よりもその他の要因（県内主要観光施設の大型行事の実施、自然災害の発生）による影響が大きく、公園利用者（観光客）の増加を図ることができなかった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	本事業で石見銀山公園の遊歩道L=1,100mのうち、調査の結果、落石対策工の防護工L=279m、予防工12箇所対策が必要であることが分かった。このうち本事業により、防護工L=149m（進捗率53%）、予防工7箇所（進捗率58%）の落石対策工を実施することができ、石見銀山公園の公園利用者（観光客およびガイド者）の安全確保を図ることができた。
特記事項（今後の方針等）	
残りの落石対策工の防護工L=130m、予防工5箇所について、第2期石見銀山公園を拠点とした観光計画を利用した公園整備計画により引き続き整備を実施し、石見銀山公園の公園利用者（観光客およびガイド者）の安全確保を図り、大田市新観光計画の世界遺産を巡るモデルコースとして位置付けられている役割を果たしていきたい。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	石見銀山公園の主な利用者である観光客の計測		
	最終目標値	195000人/年	目標値を定める際の当初値が県内主要観光施設の大型行事の影響により、観光入込客数が大幅に増加した年を基準値としていたこと、また、地震、豪雨、猛暑といった自然災害の発生により観光入込客数が減少したことにより目標値と実績値に差が生じた。
	最終実績値	84705人/年	

(参考図面) 社会資本総合整備計画

